

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103399		
法人名	株式会社はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山(やまびこ)		
所在地	和歌山県和歌山市福島486番地1		
自己評価作成日	令和5年10月14日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070103399-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070103399-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	令和5年11月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が今まで過ごされていた環境や生活状況とかけ離れない様に、可能な限り時間をあわせて頂いております。名前の通りお家にいるをモットーに気兼ねなく、笑って過ごせる場所の提供を心がけています。スタッフの年齢層も20代から70代と幅広く、入居者様ごとに適切なケアや会話に対応していけると考えております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個人の住宅やアパート等の中に立地している開設から約20年のホームである。職員の年齢層は幅広いが、職員からは、お互いに話しやすく、協力して仕事ができ、働きやすいとの声があり、職場環境の良さが確認できた。ホーム長、管理者、職員は、入居者本位の個別ケア実践の向上に努め、当ユニットはホームの2階に位置しているが、要介護度が重度の入居者も含まれる中、テレビを見たりして、各々が混乱なく穏やかに過ごされていた。コロナ禍においては、家族との面会が困難な場合があり、入居者の日々の暮らしが分かりやすいように、本人の写真や職員のコメントを添える等工夫したホームからのお便りを送付して、家族の安心感が伺えた。ホームでは、コロナ禍が緩和された今後、外出支援や地域との交流等について、新たな取り組みを検討している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enter)

(やまびこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を作成、掲示し、管理者・職員で理念を共有して実践に繋げている。	管理者、職員で意見を出し合って理念をつくり、皆が見やすいところに掲示している。その人らしく生活ができるように、新人職員には丁寧に指導する等して、共有・実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍は地域との交流が困難であった。今年度は地域清掃や地域の催しにも参加している。	地域の自治会に加入し、地域清掃を行っている。民生委員が交代したので、新たな連携を検討している。また、社会福祉協議会を通じて、コロナ禍前に実施していた地域のボランティアの利用を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流は、挨拶や世間話は行えているが、認知症についての相談や地域の方に向けての発信は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は文書開催のみであった。8月よりホームでの開催を予定していたが、ホームの入居者様がコロナウイルス陽性となり、断念する結果となった。	コロナ禍において、運営推進会議は2か月に1回文書開催であったが、コロナ禍が緩和されたことから、10月に実施、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し、入居者、その家族の意見を考慮して、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があった際や、受診の報告等で相談・報告をさせていただいている。	要介護認定に係る申請、調査時に連絡をしている。 また、短期入所サービス開始時には市役所に相談し、利用希望があれば、サービスの提供を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、身体拘束について理解を深めている。	年4回ホーム内で研修を実施し、玄関の施錠を含めて身体拘束等について職員間で共有、実践している。 今後は、外部研修への職員派遣を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、虐待について理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、権利擁護について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に、不安であることや疑問については説明させて頂いている。また、契約の前に契約書を郵送させていただき、事前にご一読いただいてから契約の際に疑問点が無いかを尋ねさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までは運営推進会議にて、利用者様や家族様の意見を伺っていたが、コロナ禍のおりは文書開催となってからは、要望等が運営部分ではなく面会希望等になってしまったが、極力面会出来るように対応はさせて頂いた。	運営推進会議実施において、全家族に運営に関するアンケートを送付し、出てきた意見は運営に活かせるように取り組んでいる。また、電話連絡時等においても、家族が意見を表出できるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や年2回の人事考課の際に面談を行い、働き方の希望や問題点について話し合える時間を設けている。また、普段から相談しやすい様に心がけている。	管理者等は、職員が日常的に意見を述べやすい関係性作りに努めている。認知症の周辺症状の変化や重篤化等についても、職員の意見を反映させ、住環境等の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。就労年数や資格取得、社員登用にて給与が上がるシステムを作っており、向上心を持って働いてもらえるように思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。法人外の研修については、必要最低限の研修以外はあまり行っていないが、内部研修については必要だと思う物を随時取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ以降の外部研修は必要最低限となってしまうが、認知症実践者研修等の同業他事業所と接する機会は必要だと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みを頂いた後に、本人様の所へ訪問させて頂き、ご本人様や主介護者様から不安な事や困っている事について伺う様になっている。また、サービス内容についても説明し、極力納得して頂いてから入居して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学の際より、家族様の困りごとや不安、疑問を伺い、サービスについても説明させて頂き、納得されてからの入居となるように努めている。また、入居者様の生活習慣や生活歴等を伺わせていただいたり、介護を任せるだけでなく、関わって頂ける様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の見学と本人様の面談に伺った際には悩み部分や希望を伺い作成させて頂いたプランについて、契約の際に説明をさせて頂き、納得して頂いてからの入居とケアの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に面談を行った上でプランを作成しているが、入居後にその方の状況を見た上で、プランの変更も行い、役割をもってホームで生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以降も面会は予約制であったりと頻回な交流は行えていないが、入居者様の生活歴や趣味等を伺い、プランに取り入れる際には連絡・報告し、ご納得頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会謝絶になっていたがコロナ禍が落ち着いてきてからは、少しずつだが昔の友人や親戚の方などのなじみある関係への接点を持つことが増えてきている。	コロナ禍以降は、馴染みの関係性が途切れてしまっているが、今後は、馴染みの場所へ行ける等の取り組みを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自発的に気の合う人や話が出来る関係の構築の支援を行い、また大きなトラブルにならないように配慮を行い、入居者様同士の関係を把握し、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる窓口となれるように普段より信頼関係の構築に努めている。相談された時など、提案・アドバイス等の支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や、その人の行動等から、本人様の思いや意向を想定し、本人様の思いに沿って、支援している。また、思い違いのないように何度か努めている。	本人の思いや意向を把握するために、本人、家族、今まで利用していた介護サービス事業所等から情報を収集し、個別の「基本情報シート」に記録して職員間で共有し、その人らしく生活ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で本人様や家族様から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。入居後も本人様や家族様と話す機会を増やし、常に知らない情報がないか情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察を行い、本人様の訴えにも傾聴して、または推察し、記録に残し現状の把握に努めている。定期的にケアカンファレンスを行い有する力や思いの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフと毎月ケアカンファレンス等で情報共有を行い、本人様の状態を確認と把握し、担当者会議で主治医との意見交換、家族様の思いを聞き、本人様にとって、必要な介護計画を目指し作成している。	サービス担当者会議における、本人、家族、主治医、職員等の関係者の意見を反映し、介護計画を作成している。 また、3か月に1回モニタリングを実施し、介護計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、日常生活に関する事とプランの実施との紐づけを行い記録している。また、記録から問題点や状態をスタッフ同士で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	転倒や急な体調変化の際に受診や救急搬送への付き添い、家族様がどうしても対応できない場合等に対して、病院へ付き添い同行を行っている。本人様にとって必要な支援やサービスを柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為ボランティアの活動受け入れは出来ていなかったが、コロナ禍が落ち着きをみせ始めているので、地域で行われている催し物に参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人様とご家族様に意見を聞き希望を取り入れている。その後経過も家族様には報告し情報の共有を行い、密な信頼関係を築き、適切な治療を受けている。	家族が通院介助をできない場合は、職員が受診支援をして、他科や馴染みのかかりつけ医を受診できるように配慮している。また、歯科受診については、往診にて対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が来られ、入居者様の状態の変化や観察での気づきを細かく報告相談し適切なアドバイスを得ている。また、24時間対応の為、急変時等もすぐに報告相談し、適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には病院関係者や家族様と情報交換を行い、また、密に連絡を取り合い、本人様にとってよい状態で治療に向けられるように関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を把握し、経過観察を行い、ご家族様との話し合いの場を設け、希望をお聞きし、ケアの方向性を検討し、終末期であっても安心して過ごせる様に、スタッフや主治医と訪問看護師で情報とケアを共有し、支援に取り組んでいる。	入所時に、重度化・終末期のあり方について本人、家族の意向を確認し、ホームでの対応等について十分に説明している。その時期が近くなった場合、再度意向を確認して、主治医、訪問看護師等と連携してターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、急変や事故発生の状況に合わせて、応急手当の方法や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付ける様、取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の日中夜間を想定した防災訓練を実施している。その際にどちらかでは消防局の職員に指導して避難訓練を行い、避難する方法をスタッフは身につけている。	避難訓練は年2回実施し、そのうち1回は消防署職員の指導の下で実施しているが、地域との協力体制ができていないため、民生委員等を通じて、今後の対応を検討している。災害における業務継続計画についても策定中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の一人一人の生活歴や歴史を知り、理解し、それを尊重した上で、ケアを行い、言葉使いにも十分気を付け、支援に取り組んでいる。	入居者各々の名前の呼び方については、本人の意向を尊重している。 また、新人職員においては、認知症介護について丁寧に対応方法等を指導し、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、本人様の思いや願いを汲み取り、その上で自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活のペースを尊重し、本人様の希望を汲み取り、スタッフが寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の服や色の好みや拘りを把握し、着替えの際には、本人様に自己決定をしていただき、身だしなみを本人様の好みで出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供させて頂いているお食事は旬の食材を取り入れられており、また行事等では季節に関する料理を提供し、季節感を感じられながらお食事をされている。	毎日の食事の用意や片付け等は、入居者の特性や意向に応じて一緒に行っているが、食堂のカウンターを高くする等して、安全に配慮している。 また、行事食は、入居者が楽しめるように意向を反映した内容にしている。今後は、ラーメン屋、フードコート等の外食も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病歴に合わせた食事量とバランスを把握し、食事の提供に工夫をし、1人ひとりの状態に合わせた食事や水量を提供出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、一人ひとりに応じた口腔ケアの実施を支援することで、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに伴った声掛けや誘導を実施している。体調の変化でパターンが変わった時も都度スタッフ間で情報を共有し、支援している。	業務日誌を含め、個別の排泄チェック表があり、それに基づいて排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンや排便状況を把握した上で、腸内活動を促すよう歩いて頂いたりラジオ体操を行ったりと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴の時間は決めているが、入浴の際は本人様に確認し、自己決定をしていただき、拒否がある時も無理はせず、タイミングを合わせ、気持ちの良い入浴を心がける様に取り組んでいる。	個々の希望に合わせた時間に入浴している。身体機能が低下していることから浴槽に入れない入居者については、シャワー浴を実施している。	身体機能が低下していても、湯船につかりたいと希望される場合は、職員の入浴介助の負担軽減、安心安全性も含め、福祉用具の利用等による入浴環境の改善が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にお昼寝する方等、入居者様個々の生活習慣に合わせた休息と、温度調整や清潔な寝具でその人に合わせた安眠が出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬について効用や副作用を把握し、調剤薬局とも情報交換を行い理解に努めている。また、投薬カードを直ぐに見れるところで管理し、直ぐに確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握し、掃除や洗濯物をたたむ等の役割を持てる様に支援している。また、スタッフと一緒にリビングの飾りを作成する時も、お手伝いしていただき気分転換の一部として支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はスタッフと一緒に散歩や買い物等の外出支援を行っていたが、コロナ禍の為、出来ていないかただったが、現在はコロナ禍が落ち着きをみせ始め、徐々に外出支援の機会を設けている。	コロナ禍が緩和されてから、散歩の機会が増えてきている。今後は、外食も兼ねて衣類店、百円ショップ等への買い物も検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様のお金は施設預かりとさせて頂いているが、本人様やご家族様の希望により、希望の物品を購入したり、必要な物を購入することで、いつでも使える状態にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の際にリモート面会や、電話でお話を希望され実施していた、現在は面会が緩和され会いに来られることが多いが、本人様や家族様が希望される際はいつでも電話を使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は季節に応じた飾りつけをし、出来るだけ光と風を取り入れ、明るく清潔感のある空間にしている。風通しをよく行い、新鮮な空気と、温度湿度調整を行い、快適に過ごせるよう取り組んでいる。	リビングには、季節を楽しめるように、入居者と職員が共同で作った掲示物等が飾られている。また、洗面所の大きな鏡が入居者の混乱をまねいたことから、シールを張る等して、入居者が穏やかに過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はリビングと和室に分かれており、一人一人が自由に過ごしていただけるよう取り組んでいる。また、気の合った入居者様同士で過ごせるように、席等を特に決めず自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後に家族様と相談し、なじみのある物や家具を持ってきていただき、使い慣れた家具を使って頂くことで、居心地よく過ごして頂けるよう取り組んでいる。	個々の居室には、過去に使用していた衣類のキャビネット、扇風機、ベッド等が配置されている。また、座卓の上には、家族の白黒写真が飾られていて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を把握し、残存能力を活かしていくために、状況に応じた声掛けや見守りを行い、リスクマネジメントを行い、安全を確保し、出来る限り自立した生活を送れるよう努めている。		